

2-7. 今年度の成果と今後の課題

平成 29 年度調査で挙げられていた課題と方向性について、本調査における成果と今後の課題を以下に再整理する。

項目（平成 29 年度調査）			平成 29 年度調査で挙げられていた課題・方向性	平成 30 年度取り組み方針	本調査における成果	今後の課題
地権者に係る事項	若手の会	定例会	・組織・体制の見直し、強化の検討	・若手の会を中心とした、今後のまちづくり組織のあり方について例示、議論を促す	・若手の会メンバーに対するアンケートを自主的に実施した ・若手の会を中心とした、今後のまちづくり組織のあり方について議論を進める事ができた	・今後の組織体制について継続して検討する必要がある ・定例会の開催方法、会議のあり方について検討する必要がある ・若手の会の位置づけについて、新旧メンバー間の認識の差異を解消する必要がある
			・地主会との連携強化と、自主活動の一環として各字を訪れての意見交換	・地主会と若手の会の連携強化を図る	—	・地主会との連携をより強化していく必要がある ・定例会の参加人数が少ないため今年度は実施しなかった。今後自主活動の中で継続して、実施に向けた取り組みを進める必要がある
			・跡地利用の理想像検討	—	・経済効果を上げる土地利用について検討を進めている中で、宜野湾市の持つ特性等を活かしたまちの理想について、合わせて意見を伺った	・他分野に関しても、継続して意見交換しながら理想像の検討を進めていく必要がある
			・公園以外の分野に関する検討の深度化、取りまとめの発信	・若手の会の提言事項の検討、取りまとめを支援し、地権者に対する情報発信の機会を設ける事により、地権者の跡地利用計画に対する興味・関心を促す	・定例会活動を支援した事で、若手の会が今年度テーマ「経済効果を上げる土地利用」について取りまとめる事ができた	・今後も継続して若手の会の提言事項の取りまとめを支援し、地権者に対する情報発信の機会を設ける必要がある
市民に係る事項	一般地権者	字別意見交換会	・多くの地権者が参加しやすい工夫、雰囲気づくり	・地主会と若手の会の連携強化を図る	・開催数や会場、周知方法を再検討した事により、昨年度より参加人数を増やす事ができた ・参加した地権者から意見を引き出しやすい状況を作り出し、活発な意見交換を行う事ができた	・より多くの地権者へ跡地利用計画に対する興味・関心を促し、意見等を引き出す必要がある ・意見交換の時間を長く確保する必要がある
			・定例会参加者の増と議論の活性化 ・他団体との意見交換、意見聴取の継続 ・対外的な活動のルーティン構築	・NBミーティングの今年度テーマの検討と取りまとめを支援し、検討と取りまとめに要する情報収集、意見集約の機会を設ける ・NBミーティング定例会への参加者が増加する様、活動周知を積極的に行う	・市ホームページへの定例会案内掲載により新規会員があった ・定例会活動を支援した事で、NBミーティングが今年度テーマ「防犯・防災に強い住環境」について検討し、取りまとめる事ができた ・出張定例会の実施を支援した事で今年度テーマに関する情報収集を行う事ができた	・定例会の進め方を検討し、内容の充実を図る必要がある ・そのひとつとして、対外的な活動を継続実施し、多くの市民の声を拾い集約を図る
市民に係る事項	NBミーティング	会の活動	・継続して組織の基礎固めについて議論を行い、十分に機能できるようにする ・NBミーティングが主体的に各種活動を実施できる体制の構築と、活動に対して充実感を得られる仕組みづくり ・会則の変更は保留となっているため、会員の種別の追記と合わせて、役員の任期の見直しや事務局の所管課名称変更を図る	—	・会則の変更を行った	・副会長2名の参加率が低く、会長の負担が大きくなっているため、役員の改選を検討する必要がある

項目（平成 29 年度調査）			平成 29 年度調査で挙げられていた課題・方向性	平成 30 年度の取組み方針	本調査における成果	今後の課題
市民に係る事項	N Bミーティング	会の活動	・市民の知りたい事に留意しながら知識の積み上げを行い、習得した内容を市民へ発信する	—	・市民に対し、跡地利用に関する情報や行政・N Bミーティングの取組みを発信する機会を設ける事ができた	・「まち未来だより」を通し、市内全戸配布で広く発信しており、発信した考えについて何らかの意見の回収が図れるよう検討が必要となる ・市役所ロビーでの展示を行ったが、今後は学校などで展示を行い、若い世代の興味関心を引き出すきっかけづくりに繋げる事も必要となる
	一般市民		・「過去と未来の語り場」の継続の検討や「地域団体向け出前 PR」実施について保留となっているため、年間の活動テーマに沿った活動なのか精査し今後の実施を検討する	—	・パネル展とワークショップの2つの企画を行う事で、パネル展で興味を引く事からワークショップの参加という行動まで繋がられ、N Bミーティングの活動にも直結する取りまとめを得られる事ができた	・これまでの取組みや会議で挙げた企画についても、今後の活動検討の際に実施検討を図る
			・イベントに関して、N Bミーティング会員の参加増を図るため、早期に日程を固め会員のスケジュールを確保し、実施する際の役割分担を決める等、実施体制の構築を行う ・参加者のターゲットを「親子」に絞り、大人も子供も楽しめる企画について検討を行う ・更に市民の関心事を探し、伝えていく	—	・今年度は、子どもにターゲットを絞って体験型の企画を実施できた	・イベントの開催に関して、今年度もN Bミーティングの意見の中間取りまとめや内容の調整等により、年度末の開催となっており、大学生の参加が見込まれる10月～12月までの開催を目指す ・参加者の募集方法を工夫する必要がある
			・子供が興味を持ちやすい取組みを継続的に実施し、将来のまちづくりの主人公となる人材の育成を行っていく	—	・今年度は学校からの依頼が無かったため、実施しなかった	・学校とN Bミーティングで連携を図り、イベントや出張定例会などを実施する事で、人材育成に繋げていく事を図る ・また単年度ではなく継続実施する事で、子どもたちの跡地利用への関心の定着を図る必要がある
地権者・市民に係る事項		—	—	・地権者、市民誰もが宜野湾市のまちづくりを学べ、考える事ができる場として「まちづくり講座」を開講する	・まちづくり講座の周知と、受講者の知識の向上を図る事ができた	・受講者増に向けた工夫を検討する必要がある ・多くの地権者、市民に興味を持ってもらえる講座内容を検討する必要がある ・講座修了後も受講者がまちづくりに関わる事ができる仕組みを検討する必要がある
情報発信	ふるさとの発行		・時期を捉えた的確な情報発信を継続して行う ・見やすさ及び分かりやすさの工夫など、継続して検討	・適切な時期に、分かりやすさを重視して発行する	・現時点における合意形成活動の取組み情報を発信できた	・継続した情報発信と合わせて、見やすさ及び分かりやすさを工夫する必要がある ・掲載内容について、地権者の意見を聞き出す必要がある
	まち未来だよりの発行		・継続した発行を行うとともに、情報誌を通じたイベント開催案内や活動結果報告を行い、市民の参加・協力を促す	・適切な時期に、分かりやすさを重視して発行する	・跡地利用に関する情報や・行政・N Bミーティングの取組みを分かりやすく発信する事ができた	・継続した情報発信と合わせて、見やすさ及び分かりやすさを工夫する必要がある ・「まち未来だより」を通して発信した考えについて、何らかの意見の回収が図れるよう検討が必要となる
評価及び検証	懇話会の開催		・合意形成活動に係る継続した議論の実施	・合意形成活動の方向性等について継続した議論を実施する ・若手の会及びN Bミーティング両組織の課題等について情報共有を図ると共に、各々の組織にフィードバックさせる事により、着実な合意形成活動に繋げていく	・次年度の取組みを進める上での留意点等について、一定の方向性を示す事ができた	・合意形成活動に係る継続した議論を実施していく必要がある
			・若手の会、N Bミーティング両組織の成長度合いと跡地利用計画策定期間を鑑み、今後しかるべき時期に、（仮）ゆめ会議設立に向けた取組みを検討する	—	—	・今後、しかるべき時期に検討する

【次年度以降の活動内容（案）】

前述した今後の課題の解決に向け、「若手の会、地権者」、「NB ミーティング、市民」、「地権者及び市民」、「評価及び検証の場」のそれぞれに対して、下記の考え方に従って次年度以降の合意形成活動を進めていく事が望ましいと考える。

①若手の会、地権者への取組み

（若手の会）

若手の会に関しては、定例会活動に加え、自主活動として地主会との連携強化方策や、若手の会の組織体制及び拡大のための取組み方策等について検討を進めていくと共に、各字を訪れての意見交換会実施に向けて取組む。

なお、定例会の開催方法については、開催曜日や時間の変更、自主会を増やして定例会を減らすなどこれまでの方法を見直し、より多くのメンバーが参加できるような会の持ち方を検討し、試験的に実施する事も考えられる。

（字別意見交換会）

一般地権者に対する情報提供及び直接的な対話の場、若手の会の考えの発表の場として、字別意見交換会を継続して実施する。

字別意見交換会の開催にあたっては今年度と同様、公民館等小規模な会場での開催とし、小テーブル形式での意見交換を行う。意見交換の際、若手の会メンバーによる進行とする事で、地権者からの意見を引き出しやすい雰囲気を作り上げるものとする。

事前の周知方法について、今年度は案内文の発送と合わせて、開催1週間前を目安に案内はがきを再送し繰り返し周知を行ったところ、意見交換会の場において案内はがきを持参された地権者が多く見られたため、今後も継続する事が望ましい。

なお、実施時期については例年2月であったが、今後は年度の間中期に開催するなどの検討が必要である。

（ふるさと）

継続して発行するにあたり、跡地利用計画の進捗状況等を鑑みて適切な時期に発行する。

活動内容（案）

- ・ 若手の会定例会活動支援
- ・ 字別意見交換会の開催
- ・ 地権者支援情報誌「ふるさと」の発行

②NB ミーティング、市民への取組み

(NB ミーティング)

NB ミーティングについては、定例会の内容を充実させ、誰もが継続参加したくなるような雰囲気づくりを行う。

また、各種団体との意見交換は継続して実施し、幅広い意見収集や新規会員の獲得に繋げていく。

(イベントの開催)

市民が楽しみながら普天間飛行場返還後の跡地利用について考える事のできるイベントを開催し、市民の声を集めるとともに跡地利用計画に対する意向醸成、情報発信を行う。

(まち未来だより)

継続して発行するにあたり、跡地利用計画の進捗状況等を鑑みて適切な時期に発行する。

活動内容（案）

- ・NBミーティング定例会活動支援
- ・イベントの開催
- ・情報誌「まち未来だより」の発行

③地権者及び市民への取組み

(まちづくり講座)

今年度新規の取組みであるまちづくり講座を今後も継続して開講し、受講者を増やしていく。なお、開催時期及び開催曜日、時間については検討するとともに、講義内容についても地権者及び市民の身近な所から考える事ができる内容を検討し、受講者増に向けて取組みを進めていく。

活動内容（案）

- ・まちづくり講座の開催

④評価及び検証の場への取組み

今後も引き続き合意形成活動に係る継続した議論を行う場として、懇話会を開催する。

議題及び進め方については、これまで通り若手の会及びNB ミーティングの抱える課題に対する意見交換及びフィードバックを行う事と合わせ、跡地利用計画（素案）の策定状況に応じた懇話会メンバーを随時増員させるなど、柔軟な対応を行うものとする。

活動内容（案）

- ・懇話会の開催

⑤先進地視察会及び合同勉強会の実施

上記①～④に加え、地権者側の組織である若手の会、市民側の組織である NB ミーティング両組織に対し、まちづくり先進情報の収集、蓄積並びに議論の深化を図ると共に組織間の連携強化を図るため、継続して先進地視察会を実施する。

若手の会に関しては今年度も新メンバーが参加している事から、若い世代及び新規会員を中心として視察メンバーを構成するよう留意する事が望ましい。また、過去の視察会の知識を事前に学習した上で実施し、視察会終了後は跡地利用計画にどう活かせるかを考えて両組織でフィードバックを行う事により、より効果的な知識習得に繋げていく。

合わせて、今年度と同様に視察会の中で合同勉強会を開催する。

また、平成 28 年度から視察参加者全員に対し、視察先でのレポート作成を行っているため、記憶が新鮮な状態で各自の感想や跡地利用計画への活かし方等を把握・整理する事ができた。今後も継続して視察先でのレポート作成を行う事が望ましいと考える。

活動内容（案）

- ・ 先進地視察会の実施
- ・ 若手の会、NB ミーティング合同勉強会の開催